

## 第 4 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕掛品	1,536,000	材 料	1,536,000
(2)	仕掛品	405,000	製造間接費	405,000
(3)	仕掛品	186,000	現 金	186,000
(4)	製 品	1,262,000	仕 掛 品	1,262,000
(5)	原 価 差 異	17,000	製造間接費	17,000

【解説】

実際個別原価計算に関する基本的な仕訳問題である。

## (1) 材料の消費に関する仕訳

材料の消費額 1,536,000 円を、材料勘定の貸方から仕掛品勘定の借方に振り替える。なお、消費額は次のように算定する。

材料消費額：(20 台+26 台+18 台) × 24,000 円/台=1,536,000 円

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.44 参照

## (2) 製造間接費の予定配賦に関する仕訳

製造間接費の予定配賦額 405,000 円を、製造間接費勘定の貸方から仕掛品勘定の借方に振り替える。なお、製造間接費予定配賦額は、次のように算定する。

$$\text{製造間接費予定配賦率} = \frac{5,040,000 \text{ 円}}{16,800 \text{ 時間}} = 300 \text{ 円/時間}$$

製造間接費予定配賦額：(460 時間+610 時間+280 時間) × 300 円/時間=405,000 円

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.80 参照

## (3) 外注加工賃に関する仕訳

外注加工賃は、プロジェクト#180202 のために発生したものであり直接経費となる。経費の記帳方法にはいくつかあるが、経費勘定や外注加工賃勘定が設けられていないため、外注加工賃 186,000 円を仕掛品勘定の借方と現金勘定の貸方に記入する。

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.68～p.69 参照

## (4) 完成品原価の計上に関する仕訳

プロジェクト#180201 の完成品原価 1,262,000 円を、仕掛品勘定の貸方から製品勘定の借方に振り替える。なお、完成品原価は次のように算定する。

直接材料費	: 20 台 × 24,000 円/台	=	480,000 円
直接労務費	: 460 時間 × 1,400 円/時間	=	644,000 円
製造間接費	: 460 時間 × 300 円/時間	=	<u>138,000 円</u>
合計			<u>1,262,000 円</u>

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.73～p.74 参照

## (5) 製造間接費配賦差異の振替に関する仕訳

予定配賦額 405,000 円と実際発生額 422,000 円の差額 17,000 円（借方差異）を、製造間接費勘定の貸方から原価差異勘定の借方に振り替える。

ポイント 予定(配賦)額 < 実際(配賦)額 → 不利差異（借方差異）

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.83～p.84 参照

第 5 問

問 1 4,550 円/時間

問 2 組別総合原価計算表 (単位:円)

	A 製品		B 製品	
	原料費	加工費	原料費	加工費
月初仕掛品原価	187,000	63,500	497,500	217,500
当月製造費用	3,200,000	( 2,047,500 )	6,195,000	( 3,640,000 )
合計	( 3,387,000 )	( 2,111,000 )	( 6,692,500 )	( 3,857,500 )
月末仕掛品原価	( 320,000 )	( 105,000 )	( 1,050,000 )	( 260,000 )
完成品総合原価	( 3,067,000 )	( 2,006,000 )	( 5,642,500 )	( 3,597,500 )

問 3 3,360 円/kg

【解説】

減損の処理を含む組別総合原価計算の問題である。

問 1

加工費予定配賦率と各組製品への配賦額（問 2 の計算で必要）は、次のように算定する。

$$\text{加工費予定配賦率} = \frac{81,900,000 \text{ 円}}{18,000 \text{ 時間}} = 4,550 \text{ 円/時間}$$

A製品への配賦額：450 時間 × 4,550 円/時間 = 2,047,500 円

B製品への配賦額：800 時間 × 4,550 円/時間 = 3,640,000 円

問 2

< A製品の計算 >

① 月末仕掛品原価の計算

生産データを原料費と加工費に分けて整理すると、次のとおりである。

原料費		加工費	
月初 100kg	完成品 1,900kg	月初 50kg <sup>1)</sup>	完成品 1,900kg
当月投入 2,000kg		当月投入 1,950kg	
月末 200kg		月末 100kg <sup>2)</sup>	

1) 100 × 50%    2) 200 × 50%

原価投入額の配分方法は先入先出法であるから、月末仕掛品原価は当月製造費用から計算する。

$$\text{原料費の月末仕掛品原価} = \frac{3,200,000 \text{ 円}}{2,000\text{kg}} \times 200\text{kg} = 320,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の月末仕掛品原価} = \frac{2,047,500 \text{ 円}}{1,950\text{kg}} \times 100\text{kg} = 105,000 \text{ 円}$$

②完成品総合原価の計算

完成品原価 = (月初仕掛品原価 + 当月製造費用) - 月末仕掛品原価

$$\text{原料費の完成品原価} : (187,000 \text{ 円} + 3,200,000 \text{ 円}) - 320,000 \text{ 円} = 3,067,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の完成品原価} : (63,500 \text{ 円} + 2,047,500 \text{ 円}) - 105,000 \text{ 円} = 2,006,000 \text{ 円}$$

< B製品の計算 >

①月末仕掛品原価の計算

生産データを原料費と加工費に分けて整理すると、次のとおりである。

原料費			加工費				
月初	300kg	完成	2,750kg	月初	150kg <sup>1)</sup>	完成	2,750kg
当月	3,150kg	<del>減損</del>	<del>200kg</del>	当月	3,000kg	<del>減損</del>	<del>200kg</del>
	△ 200kg	月末	500kg		△ 200kg	月末	200kg <sup>2)</sup>
	2,950kg				2,800kg		

1) 300kg × 50%      2) 500kg × 40%

B製品では正常減損が発生しているが、生産工程の途中で発生している場合には、発生点を始点と同様に考え、正常減損費を完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。この場合、度外視法にもとづき、月末仕掛品原価の計算において、当月投入数量から正常減損量を差し引く。

これにより、月末仕掛品原価は、次のように計算する。

$$\text{原料費の月末仕掛品原価} = \frac{6,195,000 \text{ 円}}{2,950\text{kg}} \times 500\text{kg} = 1,050,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の月末仕掛品原価} = \frac{3,640,000 \text{ 円}}{2,800\text{kg}} \times 200\text{kg} = 260,000 \text{ 円}$$

②完成品総合原価の計算

$$\text{原料費の完成品原価} : (497,500 \text{ 円} + 6,195,000 \text{ 円}) - 1,050,000 \text{ 円} = 5,642,500 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の完成品原価} : (217,500 \text{ 円} + 3,640,000 \text{ 円}) - 260,000 \text{ 円} = 3,597,500 \text{ 円}$$

問 3

$$\begin{aligned} \text{完成品単位原価} &= \text{完成品総合原価 (原料費+加工費)} \div \text{完成品数量} \\ &= (5,642,500 \text{ 円} + 3,597,500 \text{ 円}) \div 2,750 \text{ kg} \\ &= 3,360 \text{ 円/kg} \end{aligned}$$

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.138～p.145 参照

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.160～p.164 参照